

意見陳述

2022年6月8日

原告 ラトナヤケ・リヤナゲ・ポールニマ・ラトナヤケ

1. 私の名前は、ラトナヤケ・リヤナゲ・ポールニマ・ラトナヤケです。ウイシユマ・サンダマリの一番下の妹です。
2. 姉ウイシユマの死の真実を知るために、私と姉ワヨミは、昨年5月1日に日本に来ました。
3. 子どものころ、いつも、私のそばには姉がいました。父が亡くなり、母が仕事で忙しかったため、私はいつも、7歳年上の姉のそばを離れませんでした。姉は、私やワヨミに対していつもやさしかった。いつも、私たちに、勉強や、料理やお菓子の作り方、お化粧の仕方など、いろいろなことを教えてくれました。
4. 姉は、子どもがとても好きでした。子どもたちに英語を教える仕事をしていました。日本で、子どもたちに英語を教えたいと考えて、日本に行きました。日本に旅立つ日、姉は希望にあふれ、とてもうれしそうでした。その姉が、3年後に日本の入管施設内で亡くなってしまうなんて、私たち家族は想像することもできませんでした。

5. 昨年3月、地元の警察から姉の死を伝えられても、私たち家族はそれを信じませんでした。5月1日に来日し、待期期間が空けた16日に、歳をとった別人のように見える姉の遺体と対面しましたが、ワヨミも私もそれが姉だとは認めたくありませんでした。
6. 17日に名古屋入管局長に会い、18日には入管庁長官と法務大臣に会いました。誰も、入管の責任を認めず、謝罪もせず、姉の亡くなる前のビデオの映像や関係する書類を渡してほしいと頼んでも拒否されました。日本に行つて、責任のある人たちに会えば、姉の死の真相がわかり、責任を認め、ビデオも渡してくれると信じていた私たちは驚きました。
7. 弁護士や国会議員や市民の皆さんがビデオの開示を求めてくれたため、入管は8月12日に私たちにビデオのうち2時間分を見せることになりました。ただし、弁護士の同席は拒否されました。ビデオに写っていた姉は衰弱し痩せていて、ベッドの上で、自分で上半身を起こすことすらできる状態ではありませんでした。姉は、何度も点滴を求めていましたが、職員はそれを聞き入れませんでした。ベッドから落ちてしまった姉を職員が放置していた場面も見ました。ワヨミが体調を崩し、私たちはビデオの半分を見た時点で、続きを見ることができなくなりました。
8. その後、ワヨミは一度帰国し、私は、裁判所で弁護士と一緒にビデオの

一部を見ました。3月5日、姉は、「あー」と叫んで最後の助けを求めています。6日はほとんど動かず、何も話せませんでした。私は、「姉は見殺しにされた。」と思いました。救急車を呼べば姉を助けられたのに、入管職員は救急車を呼ばなかったのです。

9. 裁判官にこのビデオを観ていただければ、姉が見殺しにされたことが分かると思います。国は、今すぐに、ビデオを提出してください。ビデオがなければ、この裁判の審理を進めることができません。7月20日の次の口頭弁論までには、必ずビデオの提出をしてください。

10. 裁判官をお願いします。この裁判を通じて、なぜ、姉が入管施設内で死んだのか、見殺しにされたのか、その理由を明らかにしてください。そして、二度と、入管施設内で見殺しにされる人が出ないように、入管のやり方、考え方を変えることができるような判決を書いてください。

よろしく申し上げます。

以上